



子どもいじめ防止センターだより
 ハートフル
 ～きこえる いっしょに考えよう～
 三木市子どもいじめ防止センター

平成28年 10月発行

いろいろな行事があり、いっぱい勉強のできる二学期。みなさんは、元気に楽しく学校に通っていますか。

とても残念なことですが、青森県で8月の終わりに中学1年生の男の子と中学2年生の女の子が相次いで自らの命を絶ちました。青森県は雪国なので、二学期が始まるのが早いのです。どちらも始業式の前後の出来事でした。どちらの場合も、学校でいじめにあっているという遺書がのこされていました。学校に行くのがとても、とても辛かったのでしょうか。こんなことは絶対にあってはいけないことです。

今回は皆さんと一緒に「いじめ」について、改めて考えていきたいとおもいます。そこで、人権教材ビデオ「聲の形」を紹介したいとおもいます。このお話はコミック雑誌に連載されているもので、2015年にビデオ化されたものです。「いじめとはなにか?」「障がいと向き合うとは?」そんな難しいテーマなのに多くの読者、視聴者の心をとらえ続けています。



東映(株)教育映像部 ©大今良時/講談社より



作 大今良時/講談社コミックスより



三木市子どもいじめ防止センター
 電話: **0794-82-8110**





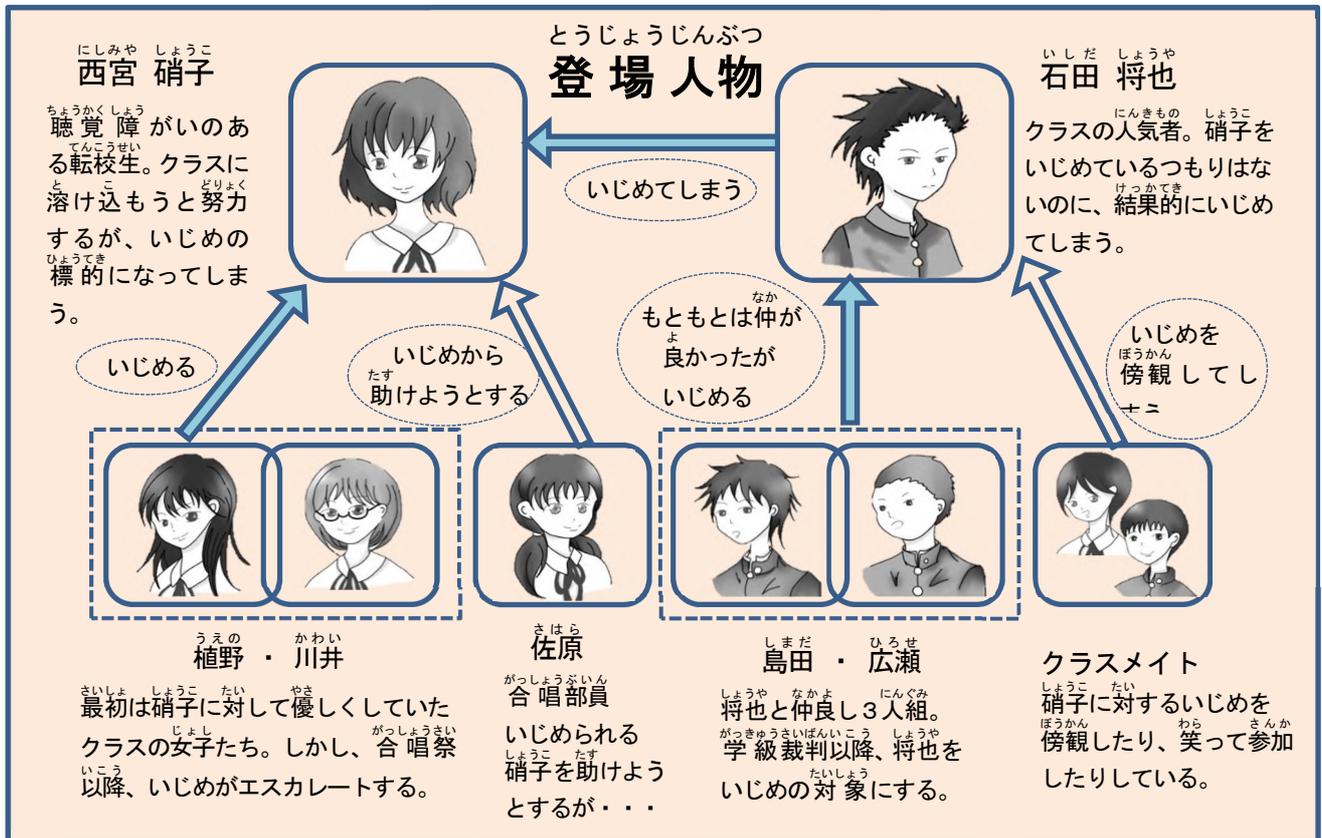
相談日: 月曜日～土曜日
 時間: 午前9時～午後5時まで
 日曜日・祝日はお休みです。

三木市福井 1933-12 三木市立教育センター3階

こえ かたち
「声の形」あらすじ

石田将也のクラスに、西宮硝子という聴覚障がいのある転校生がやってきます。硝子は、筆談ノートを使って、みんなと仲良くなろうとします。硝子は最初、みんなから好意的に受け入れられていました。ところが、先生の質問が聞こえないし、話せないで、筆談でやり取りします。そのため授業が進まず、遅れた分みんなの宿題が増えたりしたので、徐々にみんなから煩わしく思われ始めます。

そんな頃、学校の合唱祭が近づいてきました。「優勝しよう」とクラスが団結して、練習を始めました。硝子は、将也に「音痴だから口パクをしろ」と言われます。優しい佐原が、みんなと歌いたい硝子を、練習に誘い支えます。そんな佐原にも、冷たい目が注がれ始めます。合唱祭の結果がビリだったので、「硝子が歌ったせいだ。」と言われ始めます。将也を中心としたクラスメイトは、彼女に対していじめをエスカレートさせていくのでした。そんなある日、初め親切だった植野・川井たちが、硝子の補聴器を取り上げます。みんなは、からかいながら補聴器をパスして回します。取り返そうとした硝子は、転んで頭をけがして病院に運ばれます。



このことで学級会が開かれますが、みんなは叱られるのが嫌で、将也一人のせいになります。その後は、将也がいじめられるようになります。靴をかくされたり、カバンの中身をまきちらされたり・・・と。犯人は、仲の良かった島田と広瀬でした。将也は、だまっではいられないとケンカをいどんだけれど、逆にやられてしまいます。「硝子はいじめられたとき、何を思っていたんだろう。」辛い自分の立場と硝子を重ね合わせる将也。そんな時、硝子は転校してしまいます。ある日、将也は自分が投げ捨てた硝子の筆談ノートを見つめます。そこには、誰も気にとめなかった硝子の「声」があふれていました。「あの時、アイツの声が聞こえていれば。いやアイツの声を聞こうとしていれば・・・」将也のほほに一すじの涙が伝います・・・。

「^{こえ} ^{かたち} 声の形」から^{かんが} いっしょに考えよう



^{ほんとう} 本当はビデオを^み 見てもらえば一番^{いちばん} いいのだけれど、まずは、左の「^め あらすじ」に目をおしてください。
^{じんけんきょうざい} この人権教材ビデオには、「いじめ」について^{かんが} 考えさせられる^{ようそ} 要素が^つ いっぱい詰まっています。

^{しょう} 障がい^{どいよく} をのりこえようと^{すがた} 努力している^{こころ} 姿に心がうたれる。
^{はっせい} 発声^{がっしょうさい} がうまくできないのに、みんなと^で 合唱祭に出るため、^{うた} 歌の^{れんしゅう} 練習をする^{しょうこ} 硝子。
^み パラリンピックを見て、^{げんかい} 限界に^{いど} 挑む^{せんしゅ} 選手たちの^{すばらしさ} に感動^{かんどう} しましたね。



^{よわ} 弱い^{たちば} 立場の^{ひと} 人が、^{たいしょう} いじめの^{たいしょう} 対象^な になって^{いい} いいのか。
^{しょうこ} 硝子のように^{しょう} 障がいのある^{たいしょう} 人が、いじめの^{たいしょう} 対象^な になるなんて、とても^{ゆる} 許されることではありま
せんね。あなた^が 方の^{よわ} クラスには、^{たちば} 弱い^{ひと} 立場に^た 立たされている^{ひと} 人はいませんか。そんな^{ひと} 人が^{もし} いたら、
あなたは^{ひと} その^{ひと} 人をサポート^{して} いますか。

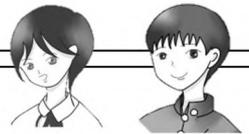


^{ひと} いじめられている^{まも} 人を守ろうとした^{もの} 者が、^{たいしょう} いじめの^{たいしょう} 対象^な になって^{いい} いいのか。
^{せいぎかん} いつも正義感^{しょうこ} あふれ、^{しょうこ} 硝子を^{まも} 守ろうとした^{さばら} 佐原^{さん} さんも、みんな^{から} うとましく^{おも} 思われ^{はじめ} 始めました。

^{つよ} 強い^{たちば} 立場^{もの} だった^{たいしょう} 者が、^{たいしょう} いじめの^{たいしょう} 対象^な になる^{こと} こともあるのか。
^{つよ} 強い^{たちば} 立場で^い じめる^{がわ} 側^{しょうや} だった^{しょうや} 将也^も も、みんな^{から} うとまれ、^{くつ} 靴^を かく^さ されるなど
^{いんげん} 陰険^{ない} やがらせ^に あいました。ついに^{ぼうりょく} 暴力^も も^う 受け^{ました} ました。いつ、^{どこ} どこで、^{だれ} 誰^が が
^い じめられる^{がわ} 側^な になる^{かわ} かわからない^{のです} のです。



^い じめられる^の のが^{いや} いやだから、^い じめる^{ほう} ほうに^{まわ} 回^{って} しまう^{のか} のか。
^{しょうこ} 硝子の^{ほちようき} 補聴器^と が^と 取り^あ げられ、みんな^が ふざけて^{まわ} 回^{して} いる^{とき} 時、あなた^{なら} なら^{しょうこ} 硝子^に 補聴器^を を^{かえ} 返^す す
^{ゆうき} 勇気^は あります^か か。



^{ほうかんしゃ} 傍観者^み (見て^み 見^ぬ ぬ^ふ ふうい^を を^{する} する^人 人) は、^{わる} 悪^{くない} くないの^だ だろう^か か。
^{じぶん} 自分は、「いじめ^{なん} なんか^{ぜったい} 絶対^{しない} しない」と^{おも} 思^っ っ^て ている^{ひと} 人も、もう^{いっ} っ^ぽ ぽ^ふ 踏み^だ 出^{して} 考^え えて^み みて^{くだ} 下さ
^{しょうこ} い。硝子^が 補聴器^を を^と 取り^あ げられる^ば 場^な 面^で で、^{なん} 何も^{して} ない^{ひと} 人も^い いました。でも、いじめ^ら れ^て いる^{しょうこ} 硝子
は、^{ぜん} クラス^{いん} 全員^に に^い じめ^ら れ^て いる^お と思^っ っ^た こと^で でしょう。そこで、「やめよ。」^い と言う^{のは} のは、^と とても
^{ゆうき} 勇気^の の^い いる^{こと} ですが、^ば この^ば 場合^は は、^{しょうこ} 硝子^の の^け け^が が^ふ 防^げ た^か かも^し けれ^ま せん。わたしたち^の の^{せい} 生活^{の中} 中で
も、「やめよ。」^{ひと} の^{こと} 一言^で で、^{ひと} 人^{ひと} ひとりの^{いのち} 命^を を^{すく} 救^う う^{こと} 事^が が^{でき} 出来る^か かも知^れ ませ^ん せん。

^い じめに^{であ} 出会^っ っ^{たら} たら^{すぐ} すぐ^{おとな} 大人^の の^{ひと} 人^に に^{そう} 相^{だん} 談^す する。
^{とう} お父^{さん} さん、^{かあ} お母^{さん} さん、^{せんせい} 先生^と と、^こ 子ども^い い^{じめ} じめ^{ぼうし} 防止^{センター} センター^{など} などに^{そう} 相^{だん} 談^{しま} しま^{しょう} しょう。硝子^も も^{おとな} 大人^に に^{そう} 相^{だん} 談^し した^か から^{てん} 転^{こう} 校^{した} した^{んだ} だ^お と思^い います。

いじめをなくそう!



ほんとうは本当に恥ずかしいのは「いじめる」ことです。
なまえを言わなくてもかまいません。
はな話したいことはありませんか? うまく話せなくてもだいじょうぶ。
こえあなたの声を聞かせてください。
もちろんひみつ秘密は守ります。わたしたちはあなたをまもりたいのです。
いっしょに「いじめ」をなくしましょう。



おおいまよしとき 講談社
大今良時・講談社
えいがこまかたちせいさくいんかい
映画聲の形製作委員会

こんにちは。子どもいじめ防止センター相談員の中川です。困ったときはひとりで悩まず電話してね。

えいが映画、見てきました! 小学生から高校生の若者で満員でした。特に、車いすの高校生が、仲間に囲まれて楽しそうに帰っていく姿が印象的でした。



 **三木市子どもいじめ防止センター**
電話: **0794-82-8110**

相談日: 月曜日～土曜日
時間: 午前9時～午後5時まで
日曜日・祝日はお休みです。

「聲の形」DVD貸出のお知らせ

このお話は、アニメ版で映画化され9月17日から劇場で公開されています。「いじめ」について考えるこのお話が、コミック男子部門の1位になったり、映画化されるということは、「いじめはよくない事だ。なくしたい。」と思っている人が、世の中にたくさんいるということでしょうね。

今回ご紹介した作品は、実写版(映画とは違います)で、30分の作品です。学校の授業で使えるように学習指導案とワークシートが収録されています。もちろん個人での貸出も可能です。

下記のところで貸出しております。本数が限られておりますので、まずお電話で確認をしてからお出かけください。

みきしりつそうごうりんぼかん
三木市立総合隣保館 ☎ 0794-82-8388
〒673-0501 みきしじみちょうよしだ
三木市志染町吉田823



みんなでいじめをなくそう!